



地域おこし協力タイムス

現在市で活動している地域おこし協力隊6人の隊員が交替でお届けします。第4回は観光化推進員（体験型コンテンツコーディネーター）の田名部茜さんです。

観光化推進員の私たちが取り組んでいる「Walk on Soil」プロジェクトは、す

でにある日常の中こそ奥州の魅力が広がっているという考えの下、さまざまな方法で奥州を発信しています。今回はその一つ、奥州の"おもしろい"を伝える小冊子「奥州zine」を紹介します。全て手書きの文字とイラストで、写真や詳しい説明書きなどはありません。何でもすぐ調べて画面上で見られてしまうデジタルな時代だからこそ「奥州ってどんなところかな」と読む人が自由に想像をしてもらい、そこから興味を持ってここに会いに来てもらえたらという思いで作りました。取り上げているのは、焼石連峰の「ハル」、全日本田植え選手権、野焼きのおじさんなど、私たちが奥州で暮らす中で見つけた面白いと思ったものばかりです。今後、都心部や奥州を知らない人たちにこの冊子を手に取ってもらい、一人でも多くの人がこの地域に興味を持ち観光につながればと思います。



We support the

希望のひかり 第67回

最新情報をお届けします
I-LC（国際リニアコライダー）計画の各種

前回の希望のひかりでは、人類初となるブラックホール撮影成功についてご紹介しました。今回は、国立天文台水沢VLBI観測所の研究チームの皆さんを講師としたブラックホール講演会の内容



宇宙遊学館で市民に成果を報告する本間所長

元・水沢南地区の住民向けに宇宙遊学館で、6月2日には児童生徒や一般向けに市文化会館（Zホール）で開かれました。注目を集める研究チームの話が聴けることあって、両講演会とも会場はほぼ満席。詰め掛けた来場者たちは、ブラックホール撮

についてお知らせします。講演会は、本間希樹所長から「市民の皆さんにできるだけ早く研究成果を報告したい」というご厚意をいただき、全国に先駆けて開催が実現したものです。5月25日は地

影に至るまでの道のりやその意義に、熱心に耳を傾けていました。

100年の問い

本間所長は、ブラックホールの概要や観測の方法などについて、時折、ユーモアを交えながら、一般の人にもわかりやすく講演されました。アインシュタインの相対性理論からブラックホールの存在が予言されたのが約100年前であるとし、「100年の問いに答えを提示することができた」と撮影の意義を述べました。また、今年は奥州の地において緯度観測が開始されてから120年に当たる年であり「節目の年にこのような成果を上げることができた。応援してくださる地域の皆さんのおかげ」と地元への感謝の気持ちを伝えました。

舞台裏と今後

パネルディスカッションでは、本間所長のほか、秦和弘助教、小山友明特任専門員、田崎文得特任研究員、大学院生の崔玉竹氏が登壇。望遠鏡があるチリではケール類を

通すための穴掘りが大変だったことや、画像解析で5万通りの方法を試したことなどのエピソードが紹介されました。今後について問われると、秦助教は「新しい研究の始まり。今回のブラックホール撮影で日本の望遠鏡は参加していないが、次は東アジアが協力したプロジェクトで水沢の電波望遠鏡を使い、ジェット（※）の姿をとらえたい」と、熱く語りました。

※ジェット：ブラックホール周辺からガスが噴き出す現象のこと。今回の撮影では、撮影できなかった

天文学者に必要なものとは？

講演会終了後、会場の皆さんから研究チームへの質問を受け付けました。その中で、天文学者を志す後藤希吏斗さん（江刺一中）から出された質問と、5人の研究者からのエールを込めた回答をご紹介します。

【質疑応答】

Q：「天文学者になりたいが何が必要か」

A：本間氏「掘り下げる努力」

秦氏「さまざまな環境に耐える体力」

小山氏「好きで研究し続ける根気」
田崎氏「興味があることへのチャレンジ」

崔氏「とにかく熱心であれ」



パネリストからはさまざまな研究エピソードが飛び出しました



すがすがしい初夏の季節となりました。皆さんいかがお過ごしですか。

奥州市に春の到来を告げる前沢春まつり、日高火防祭、江刺甚句まつりが開催されました。晴天の下、多くの来場者でにぎわい、市の魅力や元気が市内外に伝わったと思います。祭りに華を添えていただいた厄年連、年祝連の皆さんにも感謝いたします。

第3回いわて奥州きらめきマラソンでは、5309人のランナーが市内を駆け抜けました。出場されたランナー、大会運営ボランティア、また沿道からご声援いただいた皆さんに心から感謝いたします。さらに市民の皆さんに愛される大会にしていきたいと思います。

第6期協働のまちづくりアカデミーが開校しました。今期は12名の受講者が、地域課

題の解決に向けたノウハウを学びます。受講生同士のネットワークや受講を通じて得る新たな発想が、地域づくりに生かされることを期待します。市では新たに、ふるさと納税で寄贈型の返礼品の受け付けを始めました。返礼品は熱中症注意の目安表示がある温湿度計で、市内の小中学校に贈られます。将来を担う子どもたちのために活用してまいります。

京都で開催された関西奥州会総会へ出席し、また、清水寺の森清範貫主を表敬訪問してまいりました。天文台本間所長をはじめとしたチームによるブラックホールの撮影、打者で復帰した大谷翔平選手の話題で盛り上がりました。

関西奥州会と森貫主には、本市の発展のためご支援をいただいております。感謝いたします。今後とも、本市を応援いただきたいと思います。思います。



森貫主と大谷選手Tシャツで

奥州市長 小沢昌記